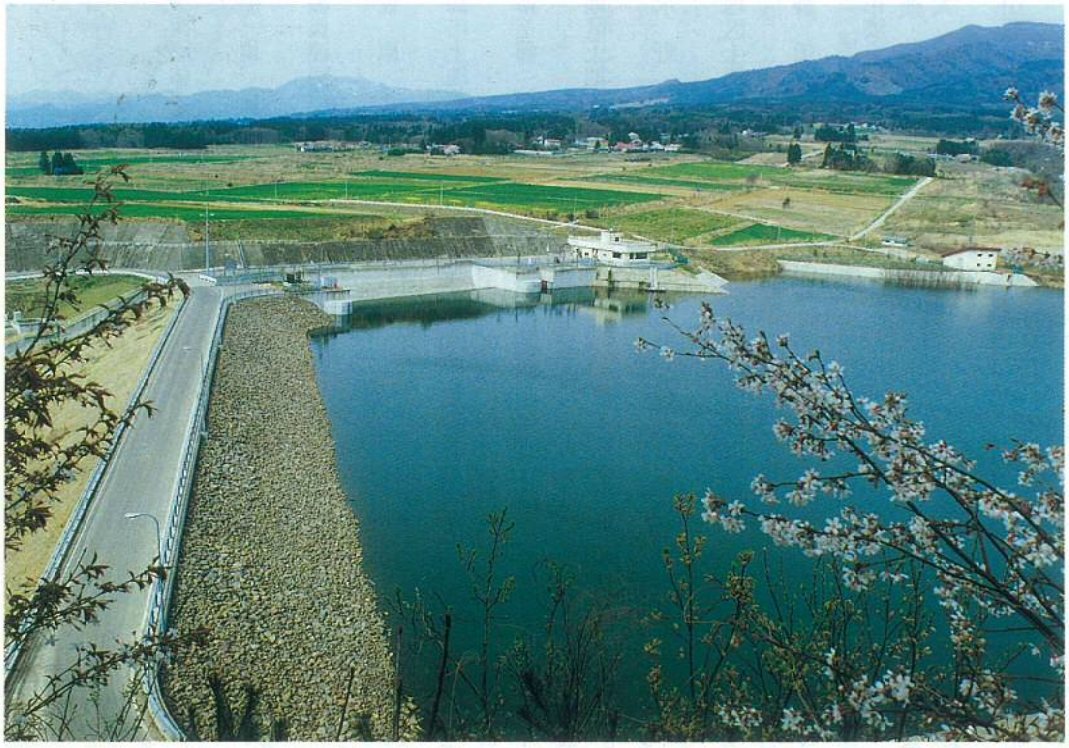
むつみ

第40号　平成６年１月31日



雄国山麓地区
（大深沢調整地）

福島県土地改良団体職員連絡協議会

目　次

一、新年の御挨拶 …… 福島県土地改良事業団体連合会
会長　伊　東　正　義
二、新年の御挨拶 …… 福島県土地改良団体職員連絡協議会
会長　佐　原　正　秀
三、イヌ年を迎えて一言 …… 福島市土地改良区
母ちゃんの頑張り楽しい我が家？　斎　藤　紀代子
四、土地改良事業と私 …… 母畑地区土地改良区
土地改良施設の管理に万全を　水　野　一
五、愛犬の思い出 …… 母畑地区土地改良区
すべてに「ゆとり」を持ちたい　森　田　多恵子
六、新しい年に願うこと …… 会津若松市湊土地改良区
農業情勢の転換期に生産基盤の整備を　大　竹　正　夫
七、米について想うこと …… 雄国山麓土地改良区
安全な日本の米を後世に　福　地　栄　二
八、先人達の土地改良事業を思って …… 山都町土地改良区
先人の残した水路を管理しなくては？　田　代　喜代志
九、土地改良と交渉力 …… 鮫川堰土地改良区
相手と先生と思い何かを学びとる　竹　原　和　弘
一〇、十坪からのスタート …… 土　地　連
今年は俺の年　過去を振り返りながら　尾　形　達　雄
一一、追　悼 …… 土　地　連
上田君を偲んで　児　玉　孝　平
一二、会員名簿 …… 事　務　局
平成六年一月三十一日現在
一三、「表紙」国営総合農地開発事業 …… 事　務　局
雄国山麓地区の概要
一四、編　集　子 …… 事　務　局

新年の御挨拶

福島県土地改良事業団体連合会
会長　伊　東　正　義

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には好天に恵まれたお正月を、新たな希望を胸に迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は内外情勢が大きく変動する中、特に農業については低温、日照不足などの異常気象による戦後最大の農業災害に見舞われ農作物は大幅な減収となりましたが、被害を受けられた農家の皆様には心からお見舞を申し上げます。

政府は、コメの部分開放に加え、経済の低迷の長期が懸念され、規制緩和、円高差益還元、追加財政措置等の緊急経済対策等が決定されましたが、今後一日も早い景気の回復が望まれるところであります。

一方日本の農業を守るため、緊急農業農村対策本部を設置し、コメの生産、供給安定対策等、農業の体質強化、農村の活性化対策等を検討することとしていますが、これが達成のため農業生産基盤の整備に積極的に取組み、豊かで住みよい郷土の発展に微力乍らお力添をしたいと思います。

最後になりましたが、日頃の疎音を深謝申し上げ、皆様方の御発展と御健勝を祈願いたしまして新年のご挨拶といたします。

新年の御挨拶

福島県土地改良団体職員連絡協議会
会長　佐　原　正　秀

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には新たな希望を胸に、新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、台風、豪雨、低温、日照不足等の異状気象により農産物等に大きな被害を受けられました会員並びに農家の皆様に対しお見舞い申し上げますと共に、コメの部分開放による農家経済の再構築のため努力しなければならないと思います。

本協議会も会員各位の御協力により、目的実現のため必要な活動及び、事業を行っているところであります。

昨年七月には、平成五年度総会を会津若松市芦の牧温泉丸峰観光ホテル会議室において、来賓多数の出席のもと、二十四名の永年勤続会員を表彰出来ました。続いての研修には、農業農村の管理対策（土地改良区、地方行政のあり方）第四次土地改良長期計画について土地連佐藤芳久専務理事の講演をお願いしました。

第2日目は会津高田町薬師寺筒井住職による、「いろ色な話」と題して講演をお願いし研修会を終ることが出来ました。

本年も、会員の意向を充分反映出来る研修に心掛けて参りたいと思います。

最後に会員各位の益々の御発展と御多幸を祈願たいしまして新年のご挨拶といたします。

あけましておめでとうございます。
会員皆様方の御発展と御多幸をお祈りいたします。
今年は昨年の分まで豊作でありますようお祈りいたします。

顧問	佐藤 芳久	土地連専務理事	幹事	鈴木 和意	磐梯西部
会長	佐原 正秀	会津北部	〃	佐藤 正雄	会津高田町
副会長	鷲野谷弘行	鮫川村	〃	小林 甫	昭和村
〃	松本 充弘	小高町	〃	小野 善男	双葉町
〃	児玉 孝平	土地連	〃	柳内喜久子	小川町
幹事	石幡 信知	伊達西根堰	〃	河内 英治	土地連
〃	森 久	安達疏水	〃	三浦 康司	土地連
〃	根本 博	安積疏水	代表監査員	鈴木 尚	熱塩加納村
〃	瀬谷 輝勝	母畑地区	監査員	蔀 忠弘	安積疏水
〃	宮坂 正幸	矢吹原	〃	稲葉 正	愛谷堰
〃	阿部 護郎	門田堰			

イヌ年を迎えて一言

福島市土地改良区
斉藤 紀代子

皆様明けましておめでとうございます。

昨年は地震、台風、凶作、そして不景気と大変な年でしたね。そんな難問をバトンタッチされたイヌ年君何んとか盛り返してほしい！昔から戌年とは景気が良くなる年と伝えられているとおばあちゃんが言っていたのでそれを信じつつ期待しているところです。

実は、この私もイヌの仲間。今年は例年以上に磨きがかかり、かみつかれるのではないかと家の父ちゃん、私の実家に行って打ち明けたそうです。皆、納得したみたい。あれで本人は、精一杯のろけているつもりなんですけどねー。四七年に出合い面白夫婦と言われていますが、結婚とは人生の出発点ではないかとこの頃感じる様になりました。全くの手探りの状態で飛び込み、夫を愛し、子供を愛し、そして周囲の人々との関わり合いもこの時から始まるのではないでしょうか。子は親の背を見て育つといいますが、それだけ生きる事に対して真剣になるんですよね。個々の意見やら感情も伴いますが人との和が大切だと思う様になります。

実母がおむつの世話になる様になり、いくらか老人性痴呆症もある生活をしているので、たまに入浴をさせてきます。風呂焚きは父ちゃんが受け持ち、母のにこやかな顔をみると、ほっとすると同時に、父ちゃんとめぐり合えて幸せだなーとつくづく感謝しています。親を大事に思ってくれる、こんな素晴らしい事ってないですよね。先日私は左脇下に卵大のしこりが出来、医大にて切開手術をしてもらいました。検査の結果がわかるまで心配でしたが、家で飼っているネコの引っ掻き傷が原因ではないかとのこと。胸をなでおろしました。それで当日は午後から手術でしたので私は午前中は仕事、父ちゃんは朝から休みをとり、逆ではないのと職場で笑われてしまいました。何をするにもこんな調子なので父ちゃんに世話をかけています。今は、息子の教育に金をつぎ込んでいるので、晩酌は安いウィスキーをたぷたぷのお湯で割ったものでがまんしてもらっていますが、この状態から抜け出せる時がきたら舌がとろける程の酒で労らってあげたいと思います。これからやらなければならない事がまだまだ続きます。意に反する時だってあるでしょう。でもこの人と一緒にいる限り何とかなるだろうと高を括っています。

新聞配達をしながら健康管理に気を配っている父ちゃん。かみつくことはせず、おしとやかに吠えますので今年もよろしくお願いしますよ。

土地改良事業と私

母畑地区土地改良区
水野 一

新年明けましておめでとうございます。

土地改良区に勤務して、早いもので十七年目を迎えようとしています。当土地改良区は現在、平成七年度事業完了を目指し、第二回目の計画変更手続き等の為に、役職員一同懸命に取り組んでいるところでありますが、なかなか同意を得ることができず、新聞等でも話題になっていることと思います。計画変更が決まれば、面積の縮小に伴い千五沢ダムの余剰水の有効活用ができ、受益者の負担軽減にもつながるのですが。昨年は世界的にも激動の年であり、日本各地天候不順に悩まされ、農作物は不作で、特に農家でさえ米を買って食べなければならないという状況となり、それに追い打ちを掛けるかのように、米の一部分開放と農家にとっては益々厳しい状況に追い込まれる立場となり、悪いことばかりが目立った年であったと思います。私は現在ダムの管理業務に携わり、給水施設が整備された地区への通水等で現場に行った時などに、地元受益者からは決まり文句のように「土地改良事業に参加して、水田は水の便も良くなり耕作しやすくなったが、畑についてはほとんど兼業農家の為、労働力不足や採算に見合った作物がなく収益が上がらないので、どのようにして償還金を支払えば良いのか、最後には土地全部を国へ返すしかない」と言う声ばかりを耳にし、返す言葉もなくなってしまいます。受益農家にとっては、とても複雑な心境だと思います。土地改良事業に参加して、喜ばれるような声を聞く為には、関係機関及び国等へ農業情勢が良くなる方向へと働き掛けるしかないと思います。

この事業が完了した後は、農政局は事業所を閉鎖し、造成された土地改良施設の維持管理業務が残り、土地改良区が管理しなければならない予定です。今後のことを考えると、問題点は山積みする程ありますが、ダムの水を持っている受益農家の為にも、自分のできるなりに頑張っていきたいと思います。

「愛犬の思い出」

母畑地区土地改良区
森田 多恵子

新年明けましておめでとうございます。

私が土地改良区に勤務して二度目の新年を迎え、毎日、上司の方や諸先輩の方々の御指導を頂きながら千五沢ダム管理事務所に努めております。

今年は戌年で私の年。だからという訳ではありませんが犬に関する思い出などを書いてみたいと思います。

今から十数年前になりますが子供の頃から憧れていたコリー犬を二匹飼い始めました。初めての血統書付きの犬というので家族全員が大変でした。私などは仕事のお昼休みにも帰宅して食事をあげたものでした。訓練士に依頼して調教してもらったりもしました。すごいなと思ったのは家には五台の車があったのですが、その内のどの車の音がしても他の車の音とは聞きわけていた事です。

そんな風にして可愛がって育てた犬も私が家を出て一人暮らしを始め、弟夫婦に子供が生まれたりすると次第にかまってやれる時間が少なくなってしまいました。それでもたまに帰って体をなでてあげると本当にうれしそうに尾をふっていました。

四年前の夏に一匹が行方不明になりその直後には死んでいた事を一年後に聞き、それから二年後にももう一匹を私の怠慢さから死なせてしまいました。真夏で暑かったのにブラッシングをしてあげなかったために熱が体内にこもってしまい高度の熱を出し、おまけにケガをしていたのを気がつかなかったためにキズ口から

ばい菌が入ったりと、悪いことが重なってしまいました。

どんなにお金がかかっても元気になるならと病院に連れて行こうとした時、もう家には帰れない事がわかっていたのか、ふだんは人の顔や手を絶対になめたりしない犬だったのに私の手をペロペロとなめたのです。私はたまらず、「ゴメンネ、ゴメンネ」と口にして涙をこぼしてしまいました。そして入院してから二日後、死んだと聞かされて引き取りに行った時に獣医の先生から病状と経過の説明を受け、とてもひどい状態だったことを知りました。思わず泣いてしまった私を先生が、「ふつうコリー犬というのは七～八年ぐらいしか生きない。なのにこの犬は十二年も生きたのだから寿命は全うしたと思いなさい」となぐさめてくれました。

動物は死ぬ時がかわいそうだから飼わないという人がいますがその時はそう思いました。でも最近は子犬を見たりするとやっぱりほしくなります。結婚して、育児の真っ最中の今はとても飼えませんがいつかは子供のためにも、もう一度飼いたいと思っています。確かに可愛がっているものが死ぬ時はつらいけれども、その悲しみを知る事も子供たちには大切な事と思うからです。

最後になりましたが抱負をとの事でしたので少し書きそえれば、年の始めだからというのではなくいつも思うのは「ゆとりを持つ」という事です。何をするにも心のゆとり、時間のゆとりなどなど、人間が生活する上でゆとりがあれば常に冷静に物事を見つめる事ができそうな気がします。そんな風にして一日一日を大切に楽しく過ごせるように心がけて行きたいものです。

新しい年に願うこと

会津若松市湊土地改良区

大竹正夫

昨年は日本の農業史上例を見ない米の一部輸入自由化が決定され、又戦後最悪と言われる大冷害に見舞われるという大変な激動の年であり、改めて我国農業の転換を迫られる諸問題を抱えながら平成六年が明けました。

取り分け、私の住む地域は会津平坦地と比較して標高五百mをこえる高冷地にあり、当然の如く冷夏の直撃を受け大冷害となりました。作況指数六十五、数字の上では戦後最悪であるが、これだけ農業技術が発達した現在、この崩壊的な被害を受けたことは約二百年前の「天明の飢饉」に匹敵する大凶作であると思います。

この飢饉では当時私の地域でも収穫0が何年か続き、百数十人の餓死者が出たと言う話を聞くと、この冷害の甚大さが痛感されます。

しかし、今では農業共済制度、又被災農家救済の融資制度が確立され、各関係機関の手厚い保護によって難無く生活出来ることを感謝し、忘れてはならない事だと思います。

そしてこの経験を生かして私達農家自らが栽培技術を錬磨し、生産意欲を高めながらこの危機を乗り越える年になればと願うものです。そんな中で我土地改良区では、関内のほ場整備事業の推進をしており度々部落説明会等を聞き啓蒙活動を進めているが、受益者の中には「この冷害の時に」とか「米の輸入自由化だから」、「後継者がいない」等々の理由から反対だと言う落胆した意見も聞きます。しかし、これらの問題を解決するためには何といっても生産基盤の整備が第一である。たとえば低温期の深水管理には高い畦畔が必要であるとか、今後輸入米と対抗するには生産コストの低減、又後継者不足になれば担い手農家を育成し、農地の有効利用を進める等々、今農業情勢の転換期こそ生産基盤の整備が必要であることを念頭に推進している。

平成六年度には県営ほ場整備事業(百九十ha)の採択着工を目指して申請中であり、この事業を実施することによって将来の地域農業の振興と発展が期待されるところであります。

さて、私が初めて土地改良事業に携わってから十三年が過ぎ、その間県営事業、団体営、県単事業を数多く実施して参りましたが、今もって土地改良事業の難しさ、責任の重大さを痛感し時には逃げだしたくなる事もありますが、組合員からの喜びの声をかけられると尚一層仕事に励みが湧いてきます。

今年は私も年男の年を迎え、これを契機にして難問山積する農業情勢に向って少しでも組合員の役に立てるよう努力したいと決意を新たにしているところであります。

『米について想うこと』

雄国山麓土地改良区

福地栄二

近頃、米の話題が豊富となっていますので、米について想っていることを無学も顧みず書き綴りたいと思います。

米は、弥生時代には日本で既に栽培されており、それにより人々は安定した生活に入り、文化も急速に発達しました。

文化とは人間が一定の目的に従って自然に働きかけ、生活を充実、発展させることの意であるのを考えれば、正に日本は米文化と言っても過言ではありません。

日本人は今迄米を収穫するばかりでなく、収穫のあとの茎で縄をない、わらじを作ったり、又屋根にふくといった様に米とは切っても切れない生活を営んできました。

加えて、体の面でも、パン食や麺類に食い飽きたという話は聞いても、毎日米を食べていて飽きたという話は聞かない様に、日本人の体には適合しています。

そんな日本文化の一つである米が輸入の方向に進んでおり、経済効率の理論をもって説明する人を目にします。

しかし、日本人の主食は米であるのに対して、肉やパンを主食としている国では、米は腹の足し程度しか食べません。

一生を通じ、主食として腹に入る食物が米である人々と、腹の足し程度でしか食べない人々とで、残留農薬等の薬剤にどの程度神経の配り方に差があるかは明白です。

又、米を主食としている国から輸入する場合でも、米自体の種類が違っており、味の面で日本米には及びません。

それならばと、日本米を他国で作ってもらい、それを輸入したらどうかと考える輸入賛成者もある様ですが、日本米は長年にわたり日本の風土で改良を繰り回してきた以上、日本の水、気候、土壌が最適でしょうし、そうした米は日本人の口にも体にも最適であると考えます。

大体からして、主食である米が海外で作られるということは、人間で例えると息子を都会へ出しているのと同じで、電話や手紙のやり取りで息子は真面目にやっていると安心していたら、実は与太者に育っていたとの話の様に、目に見えない作り方をした米には、例えテレビや新聞で安全な報道をしていたとしても不安があります。

安いからと海外の米ばかりを買い、遂には本物の日本米を失うような事になれば、先祖、子孫が残念がるに違いありません。

外国人の目には、とかく日本人は熱し易く冷め易すいらしく、オイルショックを例に上げて記述されている本を時々目にします。私の考えからすれば、これは日本人が順応性に富んでいる証拠と受け止められ、一向に痛痒を感じません。

しかし問題なのは、現在米の輸入に対して騒いでいても、いつか熱が冷めて気が付けば輸入が当然であるとの方向に進みはしないかという事です。

それを防ぐためには、米を経済的な面ばかりから見るのではなく、文化的に面からもみるなりして多面的に見直すべきではないかと考えます。

先人達の土地改良事業を思って

山都町土地改良区
田代　喜代志

会員の皆様、明けましておめでとうございます。平成六年の新春を迎え皆々様の御多幸をお祈り申し上ます。

今回、機関紙「むつみ」の寄稿依頼を受ましたが、何を書けばよいのか解らないままに筆を取りました。振り返って平成五年は、長雨、低温、日照不足等異常気象により、農作物に大きな被害を受け、農家にとって大変な打撃でありました。山都町においても基幹作物である水稲の作況指数が八十三・五パーセントと、平均で九十kg～百二十kgの減収でありました。特に標高四百mを越える山間地では、収穫が皆無の所が見られました。これまで稲作と係ってきて、冷害のため出穂したにもかかわらず収穫皆無に出合ったのは初めてである。これからも世界的な環境の悪化による異常気象が大変気がかりでなりません。

さて土地改良事業に係って早二十年以上になりましたが、この仕事の重要性、必要性を感じながら、諸先輩方の暖かい御指導と、同僚に支えられ今日まで続けて来れました。土地改良事業の積み重ねによって今日の日本農業があるのではないでしょうか。先人達の土地改良事業を思うとき、その大変な苦労と努力に頭の下る思いである。私の住んでいる集落も開拓地であり、初めは沢々からの出水により細々と耕作され小さな集落であったが、一六六三年（寛文三年）宮古川上流より、山腹をコンター沿いに延々四kmにも及ぶ三つ山地域の幹線水路が開設されたことにより、他地区からの移住者等によって、当地域四十六haの開田が行われ、三十戸程の集落となっている当水路の開設に当っては、その大部分が山腹水路と、途中三ヶ所のズイドウがあり当時としては大変な工事であったと思われる。又伝え聞くところによると、測量の方法は夜、提灯やローソクの明かりを使って行ったと言う。このような先人達の努力があって現在の集落が形成、維持され、私達が食して来れたのではないだろうか。このように水路一本考えても、作った人さえ居るのに、改良も、維持管理も出来ないでどうするのだとの思いにたち微力ではありますが、四度目の戌年を迎え新たな気持で、地域の土地改良事業推進に、各関係機関の皆様方に御指導をいただきながら取り組んで参りたいと思います。今後共、どうぞよろしくお願い致します。

土地改良と交渉力

鮫川堰土地改良区
竹原　和弘

東京での学生生活を終えてたまたま帰省していたところ、御世話して下さる方があり、土地改良区へ奉職して九年になりました。

その間、人との出会いが楽しく、また見るもの聞くもの全てが新鮮で珍しく、且つやりがいのある毎日でした。

振り返って考えると、始めて鮫川の取入口に立った時にあまりの水の勢いに圧倒されたこと、暑い夏の日に未加入地の調査を行いその酷暑に閉口したこと、またその際附近の農家で飲んだ冷水のおいしかったこと、或いは土地の境界争いで呼び出され寒風の現場で口論となり結局物別れになったことなどが、まるで走馬灯のように私の頭の中を駆け巡ります。

勿論、楽しかったことや、心温まる想い出もありますが、どうも苦しいことや悔しい思いをしたことの方が強い印象として残っております。

さて、先日昼休みに近くの書店でいつもの様に立読みをしていたところ、偶然「交渉学について」という文庫本を見つけました。

アメリカでは交渉学という学問があり、ハーバード大学の交渉学研究所の教授が個人や会社等の場合の交渉の場面を想定して、事例化し、いかにして交渉に勝つかを述べています。アメリカという国家の実践的で且つ合理性を見た思いがしました。

なるほど私達の廻りは、日常生活から始まり仕事やすべての面が交渉（力）と言っても過言ではありません。そして、この土地改良区というところは人間が相手の仕事のため交渉の機会の多いところではないでしょうか。

私の場合を申し上げれば、未収金の徴収や水路隣接者との境界立会、また開発業者等との協議や国土調査等の交渉の場に接し、どのようにして相手を説得するか考えてしまうのです。そして、その際は自分以外の人は全て先生と思って交渉に臨み、相手の方から何かしらを学ぼうと思っております。

また、普段自分を磨くため各団体や地域の活動には積極的に参加をして人間関係を広げたいと思っています。

ところが、誤解を恐れずに言えば、日本人には年の若い人を軽視する風潮があるのも事実で、これが交渉の障害となる場合があるのです。中には、交渉する前から相手が若いと見ただけで自分が勝ったと思っている人もいるようです。

そこで次に、私が経験して感心した四人を御紹介します。

① 地域の家族構成や血縁関係に詳しく、相手との共通の人間関係をいち早く見つけ出し親近感を醸成し交渉する。

② 仕事上の共通の話題から話しが発展し、場合によってはアドバイス等をして交渉する。

③ 博識であらゆる雑学に通じ、相手と充分打ち解けてから交渉する。

④ 頭脳明晰で、単刀直入に理詰めで交渉する。

この他にも皆様の廻りには交渉力の優れた人がおられると思いますが、いかがでしょうか。

最後に、第十六回全国土地改良大会の記念作文に於いて、優等賞を受賞した下郷中学校二年生の湯田慶子さんの作文を土地改良便りにて読んだ感想を述べさせて頂きます。

それは、私達農業関係者に課せられた責務が、まさにこの「おじいちゃんの笑顔」を絶やすことなく、次の世代へ伝えていくことと再認識し、心が洗われる思いをしたからです。

私はこの感動を忘れずに、組合員の皆様へ安定した水の供給という使命を達成すべく今後努力してまいりたいと思います。

以上

十坪からのスタート

土地連
尾形　達雄

あけましておめでとうございます。昨年は大きな出来事が多く、未曽有の大凶作をはじめ、ゼネコン汚職、自民党政権の交代、不況、そして米の部分開放等々。又土地連にとっても伊東会長の政界引退、十二月には笠原前会長のご逝去と大変な年であったが、今年こそは明るく穏やかな年であるよう願って止みません。

先般戌年生まれと云う事で投稿依頼を受け、そうか俺も戌年、遂に還暦を迎えてしまったのかと一瞬複雑な気持だった。過ぎて見れば早いもので、四十年もこの職場にお世話になった訳である。あと一年の在職に因み、ここで過去を簡単に振り返って見ることにする。

昭和二十八年三月福島県土地改良協会と云う聞いたこともなかったところに採用される。十坪程の部屋に古惚けた机と僅かの職員が居り、私と同級生の二人が加わって総勢十一名になった。此処の主たる業務は換地処分であったが、私共が加わってから確定測量も行ない、昭和二十九年には区画整理の設計も行なうことになった。然し設計は全く未知の分野で、指導者は勿論、参考資料も何一つなく、手さぐり状態からのスタートだった。わからない部分は県耕地課の方に教わり乍ら、何とか設計書を作れるようになった。昭和三十年県の行政改革があり、十二ヶ所あった土地改良事務所が七ヶ所の農地事務所になって、秋には十名程の技術職員が県から協会に移って来た。今まで設計に携わって来た人達だったので、私共にとっては良き指導者を得て非常に力強くうれしく思われた。

翌昭和三十一年会津地方が大水害に見舞われ、私も応援に駆り出され、高郷、柳津の土石流に埋没した地帯を調査して歩いたことが思い出される。同年秋、協会は各支部への駐在制度を実施した。私は若松支部の一員として農地事務所の一室を借り、七名程で管内の受託業務処理に当る。そして昭和三十三年土地改良法の改正に伴ない、土地改良事業団体連合会と名称が変って法人化された。

昭和三十六年には田島支部勤務となったが、そこでは受託業務から支部の一般事務並びに賦課金の徴収まで全て一人でやらねばならなかった。支部に技術職員の駐在制度があったことは、地元町村や土地改良区と交流も深まり非常に良い関係となっていたが、当時は車もバイクもない為効率が悪く、財政的に逼迫して止むなく昭和三十七年全支部職員の引き上げとなった。当時本部の事務所は転々と間借りしていたが、昭和三十六年漸く古い建物を移築したものであったが、自前の事務所を持つ事が出来た。

各支部から全職員が集った事により、業務成績は向上したが、反面血気盛んなツワ者の集団故、酒呑みとマージャンも徹底し、宿直室の汚さは目に余るものだった。それから次第に社会情勢も安定し、県営ほ場整備事業が始まるようになってから職員も増えて来た。そして夢にまで見た鉄筋コンクリートの事務所が高湯街道沿いに建てる事が出来た。その頃、土地連会長も水野谷さんから笠原さんにバトンタッチされ、私共には身近な会長さんと云う感じだったし、又仕事のことや職員の待遇等真剣に考えて呉れた人だった。その後土地連も県や会員の皆さんのお力添えによって、業務も順調に伸ばすことが出来た。又指導業務等も増えた事により、事務所も狭くなった為、現在地に移転し、会長も伊東さんに代わり現在に至っている。

勤めた当初十名前後の職員から今では約二百名になった土地連を振り返ると、まさに隔世の感である。これから二十一世紀に向け、物から心の豊かさを求める志向に移りつつある中で、私共の農業農村整備事業も生産基盤から農村環境の整備に力点が移って来た。農村にきりない豊かな自然を大切に守り乍ら、事業の推進に努めなければならないと思っている。今年は戌年俺の年、微力ではあるが誠心誠意ガンバッテ行きたい。

追悼

土地連　児玉孝平

早いもので、上田君が亡くなってからもう一月半も過ぎてしまった。四十九日も目前で「むつみ」に追悼を書いてくれと云われ、あれこれ悩んでしまう。

昭和三十四年彼が入会し、私との最初の付き合いは囲碁で、今で思えば七級か八級の囲碁であったと思う。彼は毎回にように優勝戦に顔を出していたが、私は過去一回位しか優勝出来なかった。その後麻雀クラブが発足し、大変に盛んになり昼休みも惜しんで打ったものだ。麻雀も大変上手で、四回も優勝しており、旅行券を物にしておる。

ここ十年来メンバーが揃い毎週土曜日を麻雀の日と定め、各家庭を順番に廻ったが、最近は雀荘にて打っており、彼が入院する前の週も四人でパイを囲み、毎回晩酌を五時より飲んでいた彼が、その日は四時頃より一人で飲み初め、その頃から自覚症状があり今で思えば相当つらかった様でした。

彼は酒とカラオケが好きで、バーのはしごも毎回のことで、あるバーでカラオケを二人で百回も唄ったこともある位だった。

昨年春、奥様の退職祝に一家揃って温泉に行かれたそうで、最後の家族旅行になってしまった。

わずか二ヵ月半の闘病生活で天国へ行ってしまった上田君、そこで囲碁、麻雀、カラオケを楽しみ下さい。安らかに。

国営総合農地開発事業雄国山麓地区概要

1．目　　的

本事業地域は、福島県会津盆地の北東部に位置する雄国山麓の台地で、喜多方市、北塩原村及び塩川村の１市１町１村にまたがり、その関係面積は1,087haに及んでいる。

地域は、渓流水及び雄国沼を水源として山麓低位部から高位部にかけ開発されているが、既耕地と未こん地が錯綜しており、ほ場や農道が未整備のままで利用されている。また、水資源に乏しく、用水系統が複雑であるため、未こん地は山林原野のまま放置されていたものである。

未事業は、これら未利用の山林原野等350haの開畑と既耕地551haの区画整理を行い、併せて529haの農業用用排水施設の新設改良を行うことによって、農家の経営規模を拡大し、農業生産性向上と農業経営の合理化を図り、中核農家の育成と、機械化作業体系による農業の近代化を進め、地域農業の振興を期すことを目的とする。

事　業　費

１．総事業費　　22,800,000千円（平成４年10月）
２．工　　期　　着　手　　昭和45年度
　　完　了　　平成４年度

2．営農計画及び土地利用計画

(1)　営農計画の概要

未墾地及び隣接している既耕地を総合的に開発し、農地の集団化と大型機械化体系による近代的営農方式を採用する。作物は、地域の立地条件と市場性消費動向から今後経済的に安定性のある作物を基幹とし、畑かん施設の導入により質約的作物の輪作体系を確立し、主産地形成と地域農業構造の改善と自立経営農家の育成を図る。

特に大型機械施設の所有運営と生産資財の導入は農協が主体となって行い、経営方式は、個別経営とし作業の一部共同化を進め能率向上と各種経費の節減を図る。

(2)　土地利用区分

事業名 ＼ 区分 ＼ 地目		田 (ha)	普通田 (ha)	果樹園 (ha)	小　計 (ha)	原　野 (ha)	山　林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備　考
農地造成	現　況	89	—	—	89	32	296	22	439	農業用用排水は区画整理と重複
	計　画	—	240	110	350	—	—	89	439	
農業用用排水	現　況	382	182	—	564	8	20	—	592	
	計　画	422	90	17	529	—	—	63	592	
区画整理	現　況	405	182	—	587	8	20	33	648	
	計　画	444	90	17	551	—	—	97	648	
計	現　況	494	182	—	676	40	316	55	1,087	
	計　画	444	330	127	901	—	—	186	1,087	

3．主　要　工　事

(1)　農用地造成

作　目	造成面積	造成工法 0～3°	造成工法 3°～6°	ほ　場	備　考
普通畑	240ha	山成工法	山成工法	36×100m	
果樹園	110	山成工法	山成工法	36×100	
計	350				

(2)　区画整理：畑

作　目	造成面積	造成工法 0～3°	造成工法 3°～6°	ほ　場	備　考
普通畑	90ha	山成工法	山成工法	36×100m	
果樹園	17	山成工法	山成工法	36×100	
計	107				

(3)　区画整理：田

地　目	造成面積	ほ　場	備　考
水田	444ha	20×150m	
計	444		

(4)　調　整　池

名　称	形　式	堤高	堤長	堤体積	基礎地盤	貯水量 総貯水量	貯水量 有効貯水量	備考
大深沢調整池	フィルダム	36.5m	157.7m	291,000㎥	安山岩質軟質角礫岩	720,000㎥	250,000㎥	

(5) 揚 水 機 場

名　　称	揚水量	揚　　程	支配面積	揚水機		原動機		台数	備考
				口　　径	形　　式	動　力	形　式		
第1揚水機場	0.18㎥／s	88m	136ha	250㎜ 2台	片吸込多段渦巻	132kW	電動機	2	
第2　〃	0.66	79	226	400㎜ 2台	両吸込渦巻	355	〃	2	
第3　〃	0.01	68	9	50㎜ 2台	多段渦巻	7.5	〃	2	

(6) 用　水　路

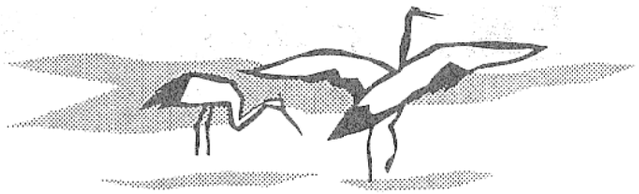
水路名	流　量	支配面積	延　長	勾　配	構　造	備　考
第1号幹線用水路	0.18㎥／s	136ha	1,990m	1／10～1／100	VU管 φ150～ 400	
第2号　〃	1.33	435	4,500	1／20～1／600	VU,PC,RC管 φ350～1,200	3号幹線含む
第3号　〃	0.66	226	4,040	1／10～1／500	VU管 φ250～ 500	

(7) 排　水　路

水路名	流　量	支配面積	延　長	勾　配	構　造	備　考
市の沢幹線排水路	8.2㎥／s	4.5	800m	1／16～1／27	コンクリートフリューム	
北口沢　〃	10.7	5.1	1,260	1／22～1／40	〃	
滝の沢　〃	25.8	13.2	1,110	1／27～1／1000	〃	
雄国沢　〃	12.3	6.4	1,030	1／14～1／26	積ブロック	

(8) 道　　路

名　　称	延　長	幅員		路面の種類	道路構造			備　考
		全幅	有効		アスファルト	上層	下層	
第1号幹線道路	2,150m	6.5	5.5	アスファルト舗装	5㎝	10㎝	20㎝	
第2号　〃	2,390	〃	〃		〃	〃	〃	
第3号　〃	1,860	〃	〃		〃	〃	〃	
第5号　〃	2,820	〃	〃		〃	〃	〃	



編集子

今年の干支は甲戌年であり犬にまつわる諺も多く、「犬と猿」「犬が西向きや尾は東」仲の悪いことや、あたりまえのことが又、犬は「三日飼えば三年恩を忘れぬ」「犬は人につき猫は家につく」母畑土改区の森田さんが犬との付き合いがこもごもと書かれている。犬も独りであちら、こちらを出歩くとひょっとすると人に棒で殴られたり、石を投げられたりすると云う。でしゃばったりするから災に合うと云う。「犬も歩けば棒にあたる」が本来の意味なそうで現在は、これと反対にじっとしていないので何かやれば思いの外幸福にぶつかる事があるということにも使われているようである。ビニール袋と移植ベラを片手に朝夕犬の散歩をされている人が多い。袋の中身は？他人の空地に埋めたり測溝や川に糞を捨てたりする愛犬家を見かけると云う人が結構多い。「犬の糞で敵を取る」「犬の一年は三日」のように人間の三日間は犬の一年にあたるくらい人間の一日一時は貴いという。よりよい一年を過ごしたいものである。

年男年女の三十六名の会員、大いに羽ばたいてください。特に土地連会員の皆様の積極的な寄稿をお願いしたいものである。

機関紙「むつみ」も本号をもって四十号を発刊することが出来ました。数多くのご意見、質疑応答、研修の成果等々参考になることが多いと思います。今後共皆さんの力でよりよい機関紙として育てて頂きたいことを望みたいものである。

最後に「犬も朋輩鷹も朋輩」を胸に頑張ってください。